

2. 定置網成り調査

定置網成り調査

漁業科 浜田英之

1. 目的

土佐清水市窪津の港前大型定置網の漁具の設計及び配置の参考とするため、網成り調査を実施した。

2. 調査方法

(1) 調査場所及び期間

調査場所 土佐清水市窪津港前大敷 (図1)

調査期間 平成元年10月24日～11月21日

(2) 網成り調査

自記式水深計 (柳計器製, BS-04型, 100 m用) を、突当り, 第2箱網敷最奥部 (通称「鏡」), の2カ所にそれぞれ1台ずつ計2台を潜水夫を使い取付け (図2), 設置後27日目の11月21日に回収した。

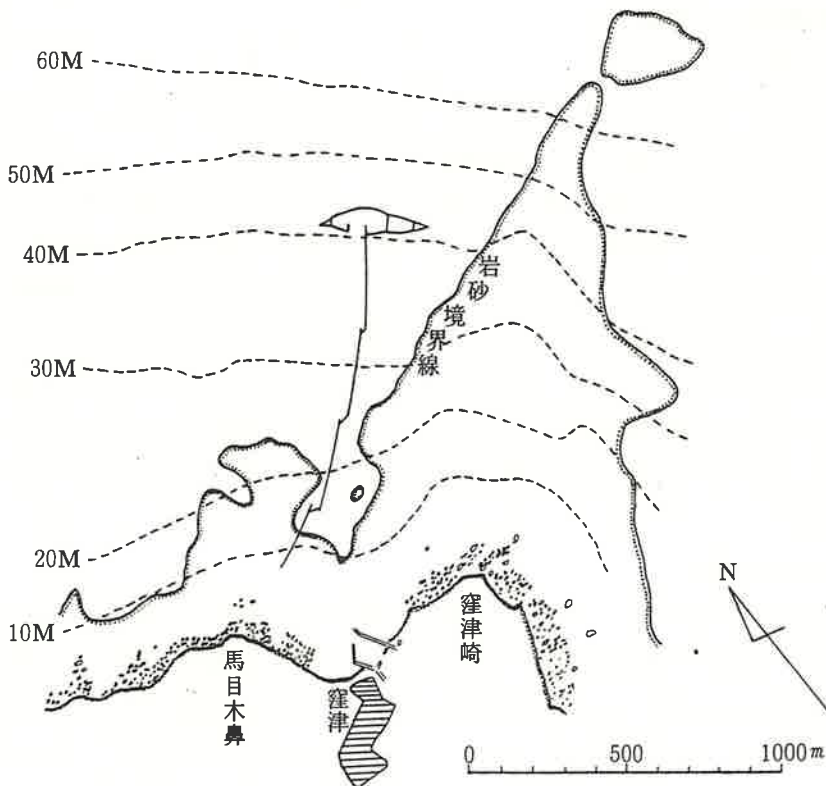
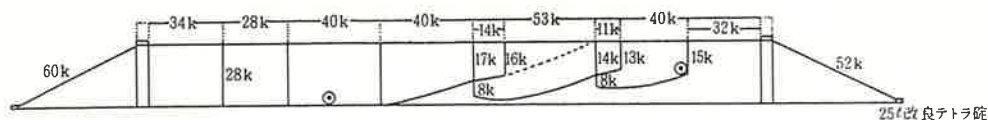


図1 窪津港前大敷位置図

側面図



平面図

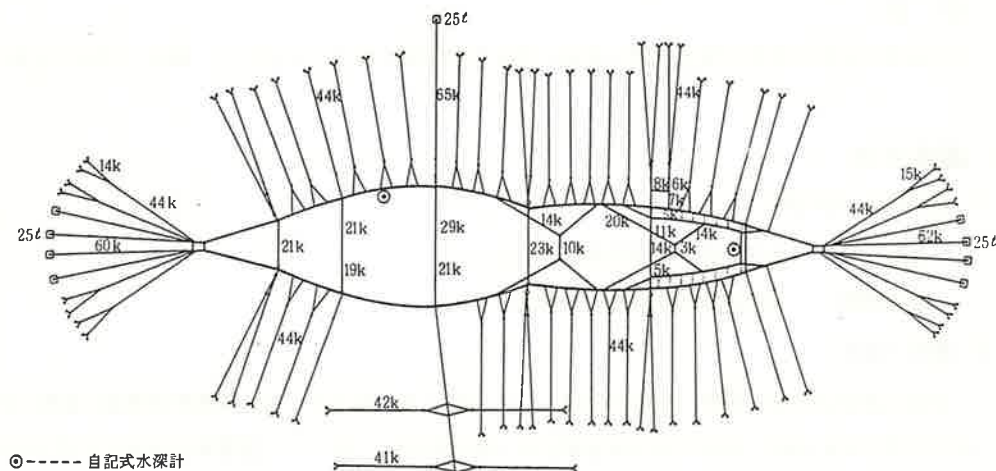


図2 自記式水深計設置位置

3. 調査結果および考察

(1) 第二箱網敷の深度変化

第二箱網敷の下台側の端の中央に取付けた水深計の30分毎の深度変化は図3-1～6に示したとおりで、最深値29m、最浅値8m、変動幅は21mとなっている。

調査期間全体を通じて、第二箱網敷の深度変化と、大敷組合の潮流記録を比較してみると、上り潮（NW流）の時第二箱網敷は浅くなり、下り潮（SE流）の時第二箱網敷は深くなる傾向が明らかに見られる。例として、10月31日は大敷組合の記録では上り潮が急で夕持ちは網持ち不可能であったが、この頃水深計も約8mと最も浅い深度を記録している。また11月15日から19日にかけては大敷組合の記録では下り潮が続いているが、この間水深計は23m～29mと最も深い深度を記録している。上り潮の際に第二箱網が浅くなるのは潮流が直接第二箱網に当たって箱網が吹かれるためであり、また、下り潮の際に第二箱網が深くなるのは潮流が第二箱網と反対側から来るためであろうと考えられる。

(2) 突当りの深度変化

突当り付近の水深は42mで、水深計は突当りの深度38m（海底から4m）の部分に取付けた。その水深計の30分毎の深度変化は図3-1～6に示したとおりで、最深値は40m、最浅値は32m、その変動幅は8mであるが、ほとんど38m付近に位置していることが図3より明らかである。最浅値32mは10月29日の下り潮時に出現しており、この際には水深計取り付け時より6mも吹き上げられていたことになるが、水深42mに対して突当り付近の網丈は54mと12mも余裕がある上、鉛網や鉛ロープも使用されているので、網すそが海底を離れているという状況は無かったものと考えられる。

定置網成り調査

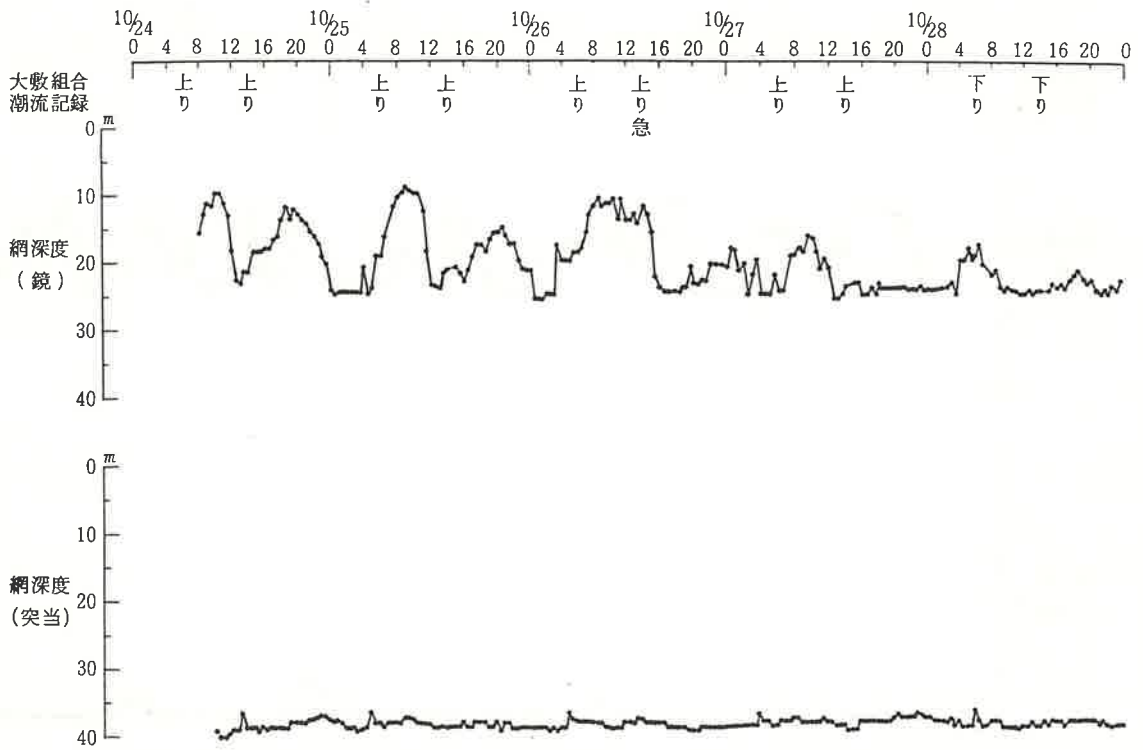


図3 網深度の経時変化-1 (窪津港前大敷 平成元年10月24日~11月21日)

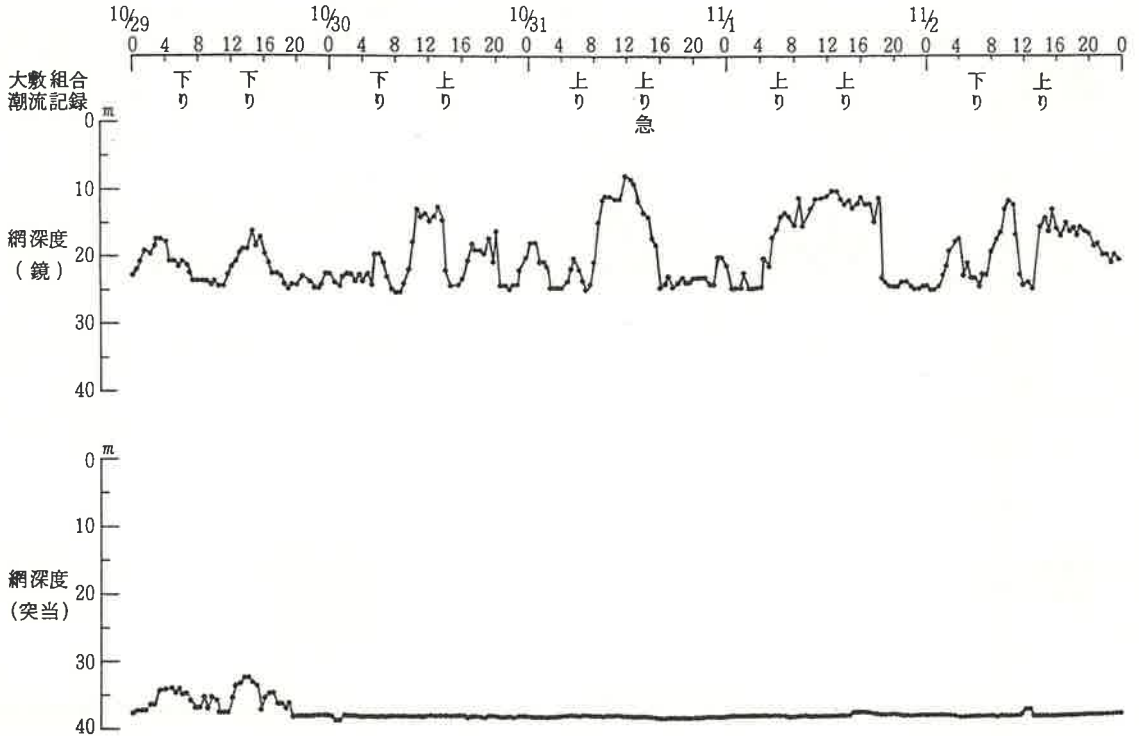


図3-2

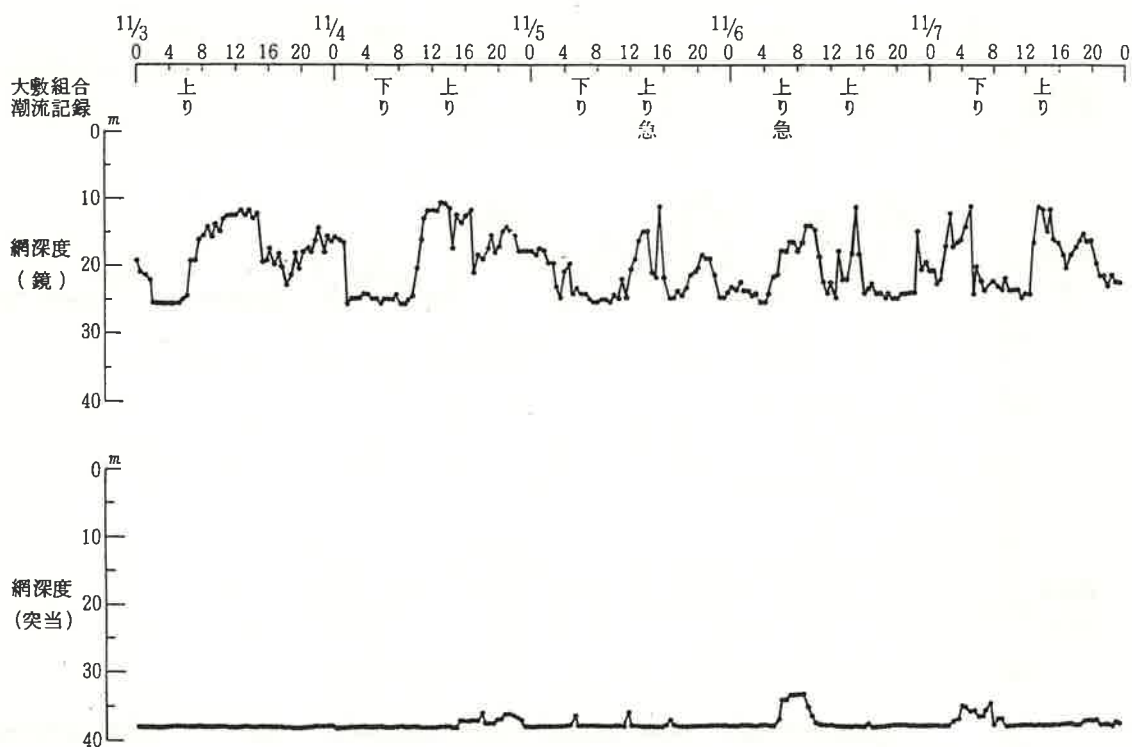


図 3 - 3

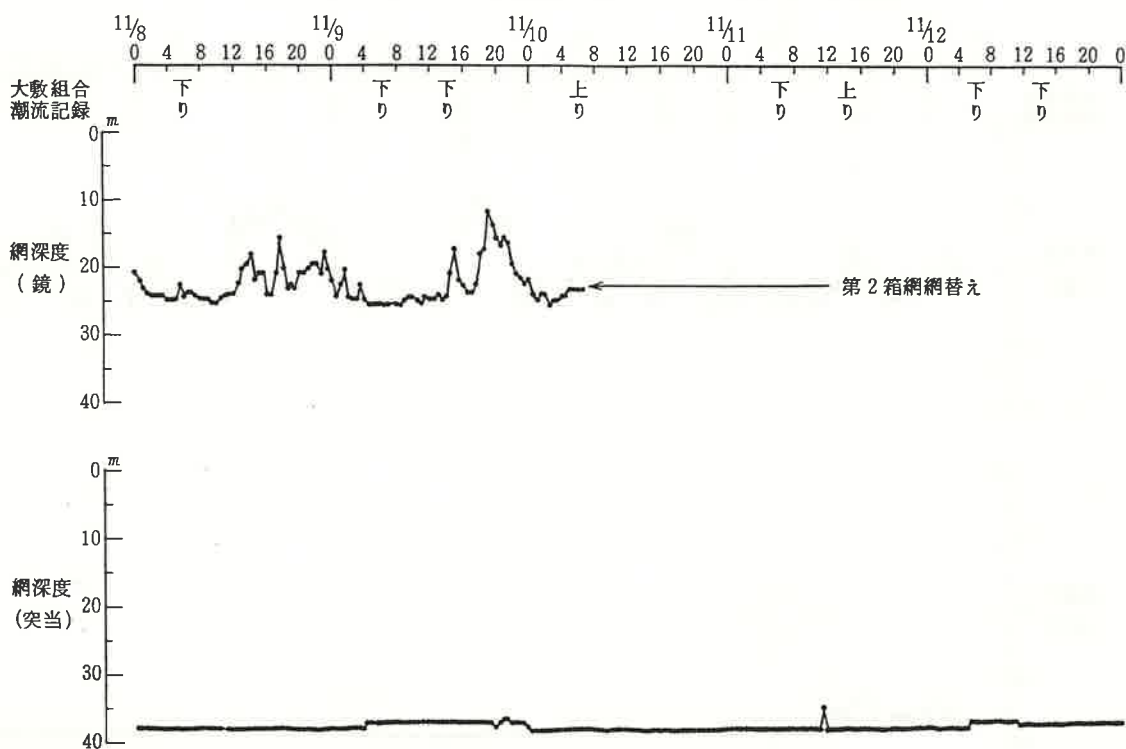


図 3 - 4

定置網成り調査

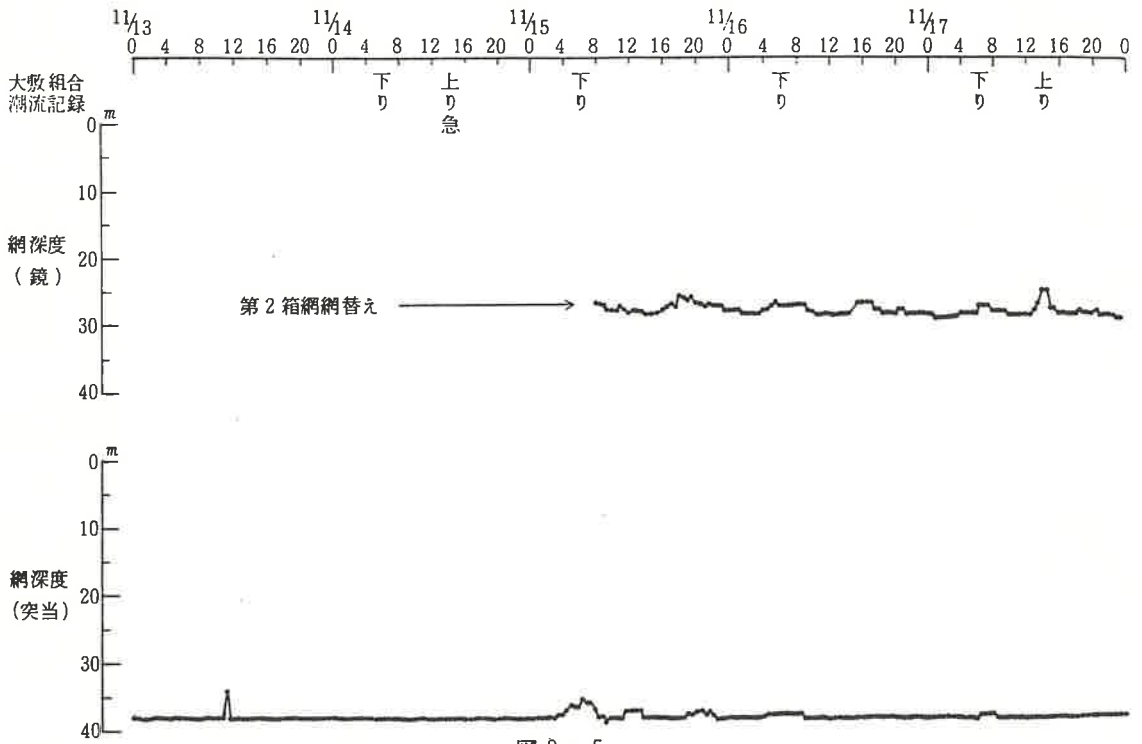


図 3 - 5

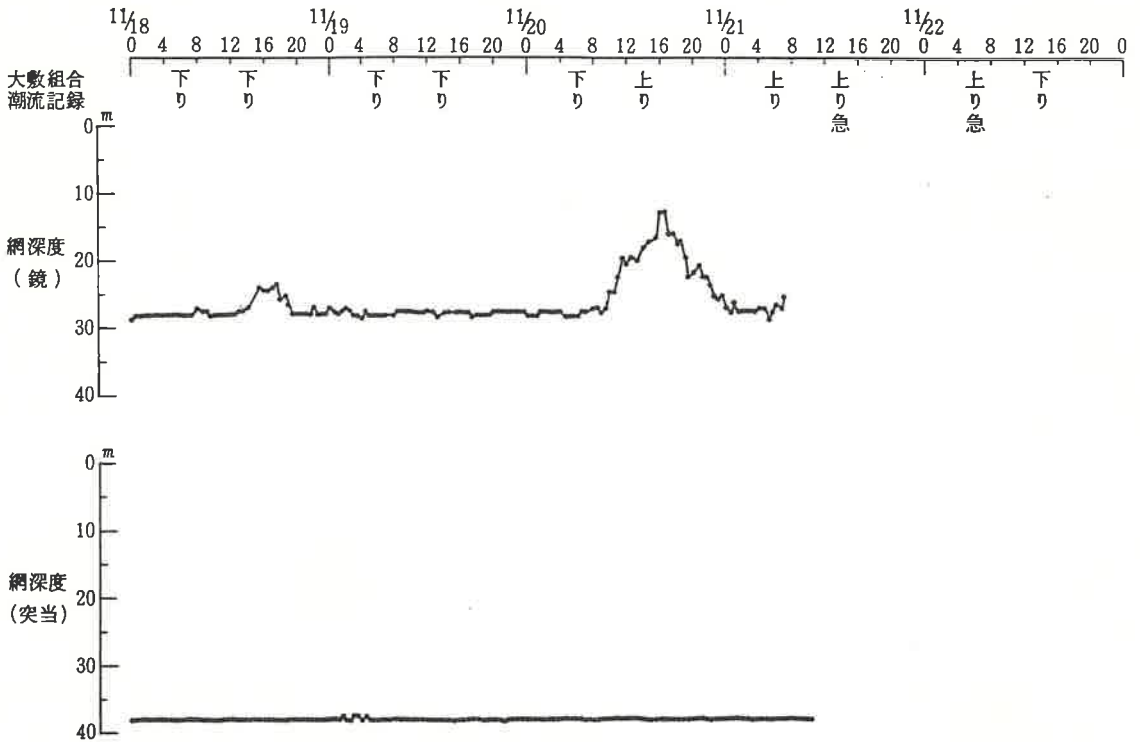


図 3 - 6